

世田谷村日記

石山修武

九月二〇日

久しぶりの曇天で気持ちよい。山口勝弘さんからの幻のFAXはついに手元には届かなかった。届かなかった事が山口さんからのメッセージであったのだろう。高齢の友人を持つと。次第にこういう事が多くなるのだろうと思う。何かの想いを送ったその気持ちだけがリアルにあつて、実際に送ったかどうかは二の次なのだろう。品格があるよね、こういうズレには。会いに来てと言っ事だろう。

山口勝弘は今、多摩プラーザに幽閉されているのだと、自分で言っていた。今流行のニートだな。自分への意志だけは激しい。しかも身体は不自由なニートだ。若いニート達は、この老ニートの激しい意志に一度でも接したらよい。自分で自分を幽閉する事の不自然さを納得できるにちがいない。

十六時過迄、北京Pミーティング。中国に関しての日本の投資はすでに冷え切っているという話しも入ったが、長い眼で見れば、やはり中国との関係は重要である。その後、渡辺・石井と現場のミーティング。無駄話し。少しづつ、育ってくる人もいる筈だ。

九月二十一日

北京Pでは我ながら困難な問題に取り組んでいると思う。もっと楽すれば良いのと思うが、コレは直らぬクセだから、仕方ない。今朝はおだやかな光が満ちている。十時半よりゼミナール。

アンコールワットより今朝帰日した中川武先生と昼食。十四時過北京ミーティング。十七時前迄。台北の李祖原と連絡。仲々中国組はタフだな。見習いたいのが、難しいだろう。あの動じなさは並のものではない。

西調布で用を済ませ、二十二時半頃世田谷村に帰る。

九月二十二日

穏やかな曇天。K氏昨日香港より北京に戻ったと李祖原より連絡あった。オリンピックサイトの現場が再開されるのを待つだけだ。二十一世紀農村研究会、第一回の記録が出来上がる。友岡君の努力で四十ページの面白いモノになった。参加希望者に頒布する。

モルガンセンターのK氏にTEL。どうですか？ビジネスは？ノープロブレム、全て上手くいっている。今週中に工事スケジュールは知らせましょう。政府のバックアップもOKで中日ビジネスのモデルとしてやる事の了解もとったとの事。全く、繰り返すが、動じない人物である。十三時過休み明けの教室会議。修了後陸海の博士論文審査分科会。その他。深夜迄。

九月二十三日 秋分の日

十六時研究室。北京Pミーティング。十七時半修了。